

100年前からの警告 知って

「原発事故と朝河貫一」刊行

武田、梅田、佐藤さん来社



「100年前からの警告
福島原発事故と朝河貫一」

福島国際交流の会会長の武田徹さん(左)、元安積高校長の梅田秀男さん(中)、喜多方高教諭の佐藤博幸さん(右)は二本松市出身の世界的歴史学者朝河貫一博士について記した本「100年前からの警告 福島原発事故と朝河貫一」(花伝社・千八百三十六円)を刊行した。

福島の東京電力福島第一原発事故調査委員会(国会事故調)の報告書で黒川清委員長(当時)は朝河博士の著書「日本の禍機(かき)」に触れた。これを受け、「日本の禍機」と朝河博士について広く知ってもらおうと執筆した。日本の禍機は一九〇九(明治四十二年)に刊行された。日露戦争で



来社した(右から)梅田、武田、佐藤の各氏

勝利し、国運隆盛がたたえられていた日本に警鐘を鳴らした。朝河博士は著書の中で、世論に感わされず、一時の感情、利害を離れ、五十年後、百年後の日本について自分なりの展望を持つよう国民一人一人に求めている。武田さんらは東日本大震災と東京電力福島第一原発事故を経験した今こそ朝河博士の言葉を重く受け止める必要があるとしている。朝河博士の思想・哲学、生い立ち、恩師についても詳しく紹介した。武田さんらは二十

日、福島民報社を訪れた。武田さんは「多くの人に朝河博士の考えを知ってほしい」などと語った。2014年4月
福島民報